

## 令和2年度 白鳩チルドレンセンター八雲中事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 新年度早々新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が出たことにより登園自粛をお願いしたため、約2カ月の間140名中60名程度の登園という状況が続き活気のない環境の中での保育となりました。
- 園内行事や保護者の参観が伴う行事は縮小や中止したものが多く、今年度は仕方ないと理解を示しつつも子ども達に日々の保育の中で得ることができたであろう体験をさせてあげられなかったことに残念に思う保護者からの意見があり、今後の行事の在り方を考え直す機会にもなりました。
- 市内の多くの学校や保育施設で罹患者が出たことによる臨時休園を余儀なくされた中、当園においては職員による日々の園内消毒や、業者による抗菌加工の実施を行ったこともあり現状幸い一人も罹患者を出すこともなく運営することができたことは幸いであったと思います。
- 保育士不足により2月に職員採用ができるまで0歳児の受け入れが定員より3名不足の9名で運営したこともあり大幅な減収となりました。令和3年度に向けては職員の退職も殆どなく、また、採用活動も順調に進んだこともあり定員は確保できました。  
市内の園児の利用申し込み状況は0歳児で軒並み希望者が大幅に減っているため、今後も動向を注視する必要があります。当園においては0～2歳児における申し込み状況は堅調でした。
- 全館の空調設備や厨房内の冷蔵庫など竣工後10年以上経過した設備関係の入れ替えが必要となり、銀行からの借り入れを行うなど当初予定になかった支出が多くなった一年でした。

#### ②定員 129名

利用児童数	1号認定	15名 (定員15名)		
	2号認定	76名 (定員63名)		
	3号認定	55名 (定員51名)	合計146名	※3月1日の数

#### ③開園日数 293日 (日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園)

教育週数 42週

#### ④開園時間 平日7:00～20:00 土曜日7:00～19:00

#### ⑤保育時間

##### ★2号・3号認定児

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜	早朝保育	7:00～8:30
	通常保育	8:30～16:30		通常保育	8:30～16:30
	延長保育	保育短時間児	16:30～20:00		16:30～19:00
		保育標準時間児	18:00～20:00		16:30～19:00

★1号認定児

平日	早朝保育	7:00～	8:30
	通常保育	8:30～	13:30
	預かり保育	13:30～	20:00

⑥職員数

園長 1名 主幹保育教諭 2名 看護師 1名 保育教諭20名（うちパート6名）  
障がい児加配 4名（うちパート3名）  
子育て支援センター事業 保育教諭3名（うちパート2名）  
延長保育事業 保育教諭（パート）2名  
一時預かり事業 保育教諭（パート）1名  
預かり保育教諭 保育教諭（パート）1名  
その他保育補助 2名（無資格） 保育支援員 1名  
学校内科医・学校歯科医各1名（年各2回検診実施） 学校薬剤師1名（年2回検査実施）

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と、非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

（3号認定児童）

【4月1日】		【3月1日】	
0歳児（ひよこ組）	9名	12名	職員数 4名
1歳児（あひる組）	18名	19名	職員数 3名
2歳児（もも組）	24名	24名	職員数 4名

(2号認定児童)

【4月1日】		【3月1日】	
3歳児(あか組)	25名	25名	職員数 3名
4歳児(き組)	26名	25名	職員数 2名
5歳児(あお組)	26名	25名	職員数 2名

(1号認定児童) ※2号認定児童と同クラスにて合同保育

【4月1日】		【3月1日】	
3歳児(あか組)	5名	5名	
4歳児(き組)	6名	4名	
5歳児(あお組)	6名	7名	

#### ⑤教育・保育内容

- 子どもへの関わり方や保育方法など「一日の保育の流れ」をもとに、クラスごとに保育の現場に入り確認しました。子ども達の声の大きさ、履物をそろえる、廊下は走らないなど基本的なことが慣れからかできていないことも多く見受けられたため原点に戻り、都度子どもに声を掛けて一緒にやり直しをしました。随時職員間改善点を共有し修正していきました。
- 「生き物」や「水」などをテーマに年齢、発達に合わせたカリキュラムを考え、子どもの興味や関心を引き出せるようにしました。子どもと一緒に生き物や水などの性質について考えることで、子ども達の知識が増え、新しい発見を楽しんだり、自分で気づくことに喜びを感じたりと子どもの認知能力、非認知能力を育てる事ができました。
- 乳児のじゃれつき遊びの時間には「わらべうた」や触れ合い遊びを取り入れ子どもとの愛着関係を構築することができましたが、若い職員の中には子どもとの関係が取りにくく素直に喜んだり、表現したりすることが苦手な職員もいます。子どもが安心して保育士を信頼できるようじゃれつき遊びの時間を大事に取り組んでいきたいと思えます。
- リトミック講師を招いて乳児から幼児の発達に合わせた体の動きを教えてもらったことで保育士自身がリトミックの動きを理解し、子ども達へアプローチしていくことができました。引き続き定期的にリトミックに取り組み子ども達の身体づくり、運動機能の発達につなげていきます。
- 「朝の意味ある運動」や「夕方運動」については、定着しており安田式遊具を使つての運動あそびや友だち同士共感できる共感遊びに取り組み脳内ストレスを発散することができましたが、園庭のスペース問題や今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、散歩や地域の幼稚園や公民館などに出向き思い切り身体を動かすことが出来なかったことで体力づくりができませんでした。
- 夏野菜や冬野菜など季節に合わせた栽培活動を行い、コロナ禍でもできるクッキングを考え食育体験を行うことができました。
- 今年度は、各行事を見直すことが多かったですが子ども自身が楽しめる保育を考え取り組みました。

## ⑥家庭との連携

- クラス懇談会（1回）個人懇談会（1回）就学前個人懇談会（1回）、保育参加（年1回）を対面  
で実施しました。2回目のクラス懇談会は緊急事態宣言中につき資料の配布のみとしました。
- 日々行っている保育の意図や内容についてはお便りや掲示物に写真を用いて保護者が理解しやす  
い形で情報発信しています。
- 配慮が必要な子どもについては、関係機関（保健センター、わかすぎ園）と連携し、訪問支援事  
業や発達相談の機会を設け、保護者も含めて3者で内容を共有しました。
- 4歳児で行われる5歳健診ではOT／PTの巡回指導を受け、必要に応じて保健センターと連携  
しながら発達相談につなぐようにしました。経過観察が必要な園児は年長時に進級した後に再度  
巡回指導を受けることとなります。

## ⑦人材育成

- 研修計画に基づいた園内、園外研修や処遇改善手当Ⅱの支給対象者に対するキャリアアップ研修  
も軒並み中止となり計画通り進めることができませんでしたが、コロナ禍により、各種団体がオ  
ンライン方式での研修を実施してくれたため、可能な限り多くの職員で受講することができた研  
修も少なからずあり、研修内容の共有がスムーズにできました。
- 保育の課題は、職員会議や園内研修の場で互いに意見を出し合い、共有した上で目的をもって子  
どもと関わる保育ができるようにします。
- 年齢発達に応じた運動あそびの指導法や集団遊びの進め方について各種団体が主催する外部研修  
に参加し、学んだ内容については指導計画にとり入れ日々の保育に取り入れます。

## ⑧地域の実態に対応した事業

- 地域子育て支援センター事業（センター型）
  - ・園内ホールや園庭を開放し、親子教室の開催をし、親子で楽しめる遊びや子育て支援に関する情  
報の提供をしましたが、度重なる緊急事態宣言の影響で実施回数も少なく利用者数も例年に比べ  
て少なくなりました。  
近隣の子育て支援センターや児童公園も閉鎖になり地域の子育て家庭の行き場がなくなったこと  
について次年度以降園として最大限できるよう工夫していきたいと思います。
- 親子ヨガや体育遊び、英語遊び、カプラの講師を招き親子で楽しむことのできるプログラムを実  
施しました。
  - ・保育相談などを受付け、必要に応じて保健センターなど関係機関とも連携し子育て支援をします。
  - ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙を通じて地域に情報発信します。
  - ・近隣の認定こども園3か園、保育士養成校と合同で地域の子育て中の親子対象に遊びの提供や講  
演会など年3回「遊びの広場」を開催します。（毎回約60組を予定）
- 地域とのかかわり
  - ・例年であれば守口市の伝統野菜である守口大根を守口東高校の学生と一緒に地域の方から栽培  
方法の指導をしていただき育てていますが、コロナの影響により双方で今年度は自重すること  
としたため、園単独で栽培をしました。

- 守口東高校の生徒の保育体験を受け入れについても今年度は中止となりました。
- 子どもの健康に関する情報交換や、子育てに関する相談業務を中野こども病院と連携して行いました。
- 5歳児は就学先の小学校に授業見学や交流会はできませんでしたが、就学先の担当教諭と意見交換や引継ぎの場を持ち、子どもの育ちや生活や学びの実情について共有しました。

#### ⑨ 苦情処理

- 第三者委員の設置について、入園説明会、園のガイドブック、ホームページや園内掲示、6月のクラス懇談会で通じて保護者に知らせました。
- 「苦情申し出窓口」として主幹保育教諭が受付担当者、園長が責任者として、「意見箱」「アンケート」など保護者からの意見や要望に対しては24時間以内に対応します。また、対応途中のものに関しては途中経過を随時伝える体制としました。  
意見箱を通じての苦情はありませんでしたが、市役所経由での保育に関する苦情やや近隣の方より園利用者の路上駐車に関する苦情がありました。

#### ⑩ リスクマネジメント

- 危機管理委員会を中心に見直しを行った「危機管理マニュアル」については、職員研修計画に基づき、職員会議の場で行う園内研修で職員とヒヤリハットや問題解決用紙の事例をもとに職員間で共有しました。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（年1回）、通報訓練（年2回）を行い園児に対して避難の方法や防火について教えてもらい職員にも消火訓練の指導をしていただきました。
- 災害時の対応については、保護者にも重要事項説明書やクラス懇談、ガイドブックで丁寧に伝え、災害を想定しての引き渡し訓練を保護者と連携し、7月に実施しました。
- 「安全管理年間計画」に基づき、危機管理委員会が中心となり、安全管理と園児への安全指導を紙芝居やDVD等を用いて月1回実施しました。  
例年は守口警察署から防犯指導をしてもらおうところですが、コロナ禍のため、DVDの視聴に変えました。
- 備蓄品リストをもとに年に1回の災害備蓄品の点検を行い、食料品や医薬品、衛生材料の入れ替えを行いました。（園児引渡表・非常持ち出し袋・倉庫備品・アレルギー児用備品など）

#### ⑪ 大型工事等修繕の実績

全館空調設備入替及び高圧電力増設工事	32,340,000円	(8月実施)
厨房冷蔵庫入れ替え工事	542,300円	(8月実施)
館内抗菌加工工事	1,760,000円	(2月実施) ※補助金事業